



災害発生時の衛生管理について



震災で被害を受けた地域では、消化器系感染症（ノロウイルス等）や呼吸器系感染症（インフルエンザ）、あるいは食中毒が発生する可能性が高くなりますので、衛生管理に注意し病気を予防することが大切です。以下の点に注意して感染症や食中毒の予防に努めましょう。

1. 手洗い・マスクの着用について

- (1) 外出後、トイレの後、汚物の取扱い後、調理や食事の前には、石鹸と流水でしっかり手を洗うようにしましょう。
- (2) 流水がない場合は、逆性石けん液を手にもみ込むようにして、その後乾燥させることである程度の効果が期待できます。
- (3) せきが出る場合はマスクを着用しましょう。

2. 食べ物について

- (1) 調理をする場合は清潔に努め、できる限り衛生的な環境で、新鮮な材料、清潔な器具によって調理しましょう。
- (2) 生ものは避けて、加熱したものを食べるようにし、調理したものは、早めに食べるようにしましょう。
- (3) 食品は、温度が上がらない冷暗所に保管し、消費（賞味）期限内に食べましょう。

3. 下痢や嘔吐物の処理について

- (1) マスクや手袋を着用し、ペーパータオル等で下痢や嘔吐物を拭き取り、ビニール袋に入れ、しっかり封をして廃棄する。
- (2) 汚染された場所の消毒には次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）が有効です。家庭用塩素系漂白剤の塩素濃度は約5～6%ですので、以下を目安に消毒液を作ってください。
 拭き取り用：水1000mlに対しペットボトルキャップ1杯
 汚れがひどい場合：水1000mlに対しペットボトルキャップ4～5杯

ダニ媒介性感染症に注意しましょう

今週は、日本紅斑熱の報告がありました。日本紅斑熱は、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）やつつが虫病と同じダニ媒介性感染症です。これからの時期は、マダニの活動が活発になってきます。ダニ媒介性感染症を予防するためには、マダニに咬まれないような対策が必要となります。森林や草地などマダニが多く生息する場所に出かける際や屋外で作業される場合は、予防策をしっかり行いましょう。

ダニ媒介性感染症の予防策

1. 長袖、長ズボン、などを着用し、肌の露出を少なくすること。
DEET（虫よけ剤成分）を含む虫よけスプレーも有効です。
2. 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
 ・特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）がポイントです。
 ・マダニが吸着する前に、活動後すぐにシャワーを浴びることも有効です。
3. 血中のマダニに気がついた場合や、マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに病院へ受診すること。
 ・無理に引き抜くとマダニの一部が皮膚に残って化膿したり、マダニの体液が逆流することがあります。
 ・すべてのマダニがウイルスなどの病原体をもっているわけではありませんので、咬まれた方が全て発症するわけではありません。



ダニ媒介性感染症に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 14	20	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 5	7	ヘルパンギーナ	↑ 30	10
咽頭結膜熱	↓ 16	25	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 60	57
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↑ 92	79	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 272	324	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 11	18
水痘	↓ 12	20	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 17	16	無菌性髄膜炎	↓ 1	4
伝染性紅斑 (りんご病)	↑ 21	18	マイコプラズマ肺炎	↑ 3	2
突発性発疹	↓ 45	63	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い
感染症

- 感染性胃腸炎
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 流行性耳下腺炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

伝染性紅斑 : 山鹿
流行性耳下腺炎 : 山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽 頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性 出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミ ジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	3	6	35	38	6	6	5	18	0	3	8	0	9	0	1	3	0	0
2 山鹿保健所	0	0	1	0	18	0	0	8	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	0	2	9	58	4	2	2	9	0	7	16	0	0	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	1	0	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	0	0	3	25	0	3	1	2	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	3	0	2	2	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
8 人吉保健所	2	0	0	13	9	0	1	0	4	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0
9 有明保健所	2	0	4	5	64	2	1	2	1	0	10	9	0	2	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	7	1	0	15	17	0	1	2	3	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	1	6	27	0	3	1	3	0	4	9	0	0	0	0	0	0	0
計	14	5	16	92	272	12	17	21	45	0	30	60	0	11	0	1	3	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5 ヵ月	6-11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	14	0	2	0	1	2	1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0
小児科定点年齢区分	合計	0-5 ヵ月	6-11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	5	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	16	0	3	8	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0						
A群溶連菌咽頭炎	92	0	0	3	7	13	18	9	14	5	6	4	9	1	3						
感染性胃腸炎	272	2	23	56	25	32	21	14	8	15	10	11	32	4	19						
水痘	12	0	0	0	2	1	1	3	0	2	1	0	2	0	0						
手足口病	17	0	2	8	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1						
伝染性紅斑	21	0	0	2	4	1	4	6	2	1	1	0	0	0	0						
突発性発疹	45	0	17	25	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	30	0	3	15	5	2	1	2	1	0	1	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	60	0	1	6	7	5	16	8	3	3	4	1	4	2	0						
眼科定点年齢区分	合計	0-5 ヵ月	6-11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	2	1	0	0
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

